

知多半島総合医療センター
臨床研修医心得

社会人として己を律すること

1. 服装や言葉遣いに気を配る。そうすることで患者や他のスタッフとの良好な関係が築ける。
2. 患者や他のスタッフに対する挨拶やお礼は忘れずにはっきりとした声で行う。（「おはようございます」、「ありがとうございます」、「お待たせしてすみません」、「申し訳ございません」など。）
3. 時間は厳守する。他人の時間を無駄にしない。
4. 他の医療機関やスタッフに関する批判的な発言を、患者にしたり、カルテに記載したりしない。
5. 守秘義務は厳格に守る。また、知り合いのカルテを興味本位で見ない。
6. チーム医療の一員であることを自覚する。指導医に対してだけでなく、コメディカルに対しても謙虚な態度で臨む。
7. 5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）を実践する。自分の机周りなどをきれいにする。（だらしない先輩を見習わない。）
8. 患者は、医療サービスを求めるお客様として接遇する。さまざまな問題点や、社会背景を持つ患者に対しての対応方法を常に模索する。
9. 社会人・医療人・機構職員としての自覚を持ち、仕事中だけでなく私生活においても倫理・道德・法律にそむく行為はしない。セクハラやパワハラは、行っているにもかかわらず自身で気づかないことが多いので注意する。
10. 自身の健康管理に気を配る。特に精神面については、自信では気づかないことが多いので注意する。
11. 困ったときには相談する。指導医・統括部長・研修委員長・プログラム責任者・病棟師長・院長など、いつでも相談にのる準備がある

自分の力量を把握し、 積極的に研修に取り組むこと

1. 研修医が単独で行ってよい医療行為を確認する。
ただし、経験したことのないことや自信のないことを単独で行わない。
2. カルテの記載は必要に応じて丁寧に行う。
また、指導医のフィードバックも必ず参考とする。
3. 入院サマリーや手術記録は、速やかに作成する。
4. 開いたカルテは、必要がなくなったら必ず閉じることを習慣づける。
5. インシデントレポートは、積極的に記載する。レポートの提出に関して上司の許可は必要ない。
6. 研修の自己評価票はひとつの科のローテーション終了後に速やかに提出する。指導医の評価に関しては、研修医に不利な状況が起きないように十分に配慮するので、安心して正直なところを記載する。病院・研修医がともに努力してよりよい研修を目指す。
7. 経験目標の達成度も、そのつど記録し提出する。
8. 症例レポートなど、研修修了の条件となるものは、研修の初期からでも、積極的に作成する。
9. 院内講演会、院外講演会など、勉強の機会は積極的に参加する。
10. 院内ルールを守る。特に、手術室や放射線科の術衣や履物をそれ以外の場所で使用しない。また、使用後は必ずもとの場所に戻す。
11. 手技に関しては、スキルラボを積極的に活用すること。

救急外来での経験を 絶対に無駄にしないこと

1. 救急外来での業務は、多忙であるが研修医にとって学ぶことの多い場所である。ここでの経験を生かすため、症例を控えて、以後の経過を見るなりして学習に役立ててほしい。また、救急外来での症例を扱う救外カンファレンスには必ず参加する。
2. 救急外来勤務者は、朝 8 時 30 分と、夕方 5 時 10 分の朝礼・夕礼に参加する。また、そのときに患者の申し送りを忘れずに行う。
3. 救急外来を受診した患者に対しては、症状の軽重にかかわらず優しく対応する。多くの患者は不安を抱えて受診しており、また研修医といえども医師には思うように話ができない人も多い。患者の人格を尊重し、その声に耳を傾ける。
4. 患者の不安をあおらない。一方、特に帰宅させるときには十分な説明も行う。上手な説明ができるように、常に意識して診療を行う。また、説明内容はカルテに記載する。
5. 患者誤認には特に注意する。電子カルテで一度に複数人のカルテは開かない。
6. 上司にコンサルトすることをためらってはいけない。病院として診療行為の結果を研修医の責任には決してしないが、そのためにも上級医への報告は必ず行う。
7. あらかじめ問題のある患者の場合は、より注意する。
8. 休日・夜間に複数回受診する患者に関しては、より慎重に対応する。
9. 患者を紹介してくる地域の医療機関や救急隊などへの対応は丁寧に行う。
10. 警察への対応は、院内ルールに基づいて行う。